

# アナフィラキシーへの対応

## アドレナリン自己注射器（エピペン）による緊急時への備え

- アナフィラキシーの既往のある児童生徒は 0.14%で、およそ 2 校に一人程度在籍していると考えられる。
- 保険適用されている。使用期限は、製造後 20 か月。  
（輸入後の検査や流通の関係で、購入後 16 か月以下のことが多い）
- 処方されたエピペンが期限までに使用される割合は、およそ 2%。
- 緊急時に自分で注射できるのは、多くは中学生以上と思われる。
- 園・学校での保管場所は保護者とよく相談して決定し、職員全員に周知する。



例) ランドセルに入れておく。登校時に保健室の棚に置き、下校時に持ち帰る。AED（自動体外式除細動器）の脇に保管場所を作る。

- 緊急時に居合わせた教職員が本人に代わって注射することは、医師法に違反せず、刑事民事責任にも問われない。
- エピペンを使用したら、原則として救急車で病院に搬送する。又、救急救命士は、本人に処方された薬を注射することが業務として認められていますから、使用を迷う場合には先に救急車を要請し、そのときにはエピペンを携帯していることを伝える。
- 教職員は、自分が打つ立場でなくてもエピペンの意味や使い方を知っておく。

### 【薬の効果】

- ・エピペンは病院外でアドレナリンを自己注射するための薬剤で、病院では、ボスミンという注射薬を使用する。
- ・エピペンはアナフィラキシーの全ての症状を和らげる。
  - ①心臓の動きを強くして血圧を上げる。
  - ②血管を収縮してじんま疹や浮腫を軽減する。
  - ③のどや気管支を広げて呼吸困難を軽減する。
  - ④胃腸の動きを調整して腹痛や嘔吐を改善する。効果は 5 分以内に認められ、約 20 分間有効。

### 【対象者】

- ・アナフィラキシーを経験した人
- ・アナフィラキシーを起こす危険性が高いと診断された人
- ・心臓疾患（不整脈や高血圧）や甲状腺の病気などを持たない人
- ・緊急時に本人あるいは家族が注射する意志のある人
- ・エピペンは子どもの場合体重 15kg 以上を対象に処方されている。

### 【使用するタイミング】

- ・アナフィラキシー出現時（とりわけゼン鳴や呼吸困難時）。つまりショック症状に陥ってからではなく、その前段階(プレショック症状)で投与出来た方が効果的とされる。
- ・過去に重篤なアナフィラキシー歴があり、誤食し違和感を感じた場合。

（参考：「ぜんそく予防のためのよくわかる食物アレルギーの基礎知識」独立行政法人環境再生保全機構、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」厚生労働省）